

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

笑顔いっぱい みんなながやく 北山田の子
 知:進んで学習に取り組み、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを深化させる子を育てます。
 徳:思いやりの心をもち、自分も友達を大切にすることを育てます。
 体:よりよい生活習慣を身に付け、健やかに成長できる子を育てます。
 公:まちとの関わりを大切にし、地域や社会のために他者と協働できる子を育てます。
 開:自分を見つめ、他者を理解し、共に生きていこうとする子を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<言語能力>
<自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

交流し協働できる力(社会生活の中での協調性・思いやり)
 自ら考え行動し、課題を解決する力(自分の考えをもつこと 発信すること)
 様々な情報を活用・選択する力(課題解決に必要な選択する力)
 多様な価値観を理解する力(他者理解 伝え合うことで集団の考えを発展させる力)

中期取組目標

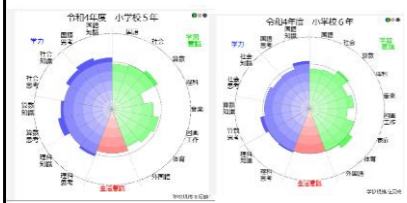
○子ども一人一人の思いや考えを大切にしながら、対話的な学びを充実させます。
 ・1年目は、YPアセスメント等を活用し児童の見取り丁寧に行い、実態に基づいて学習課題や展開を工夫するとともに、ICTを適切な場面で用いることで児童の「わかった」「できた」を増やし、学びに向かう主体性と意欲を高めていきます。
 ・2年目は、児童自らが課題を設定するなど、自分の考えをもち、見通しをもって課題解決に向かえるようになります。
 ・3年目は、多様な価値観を理解しながら、様々な立場の人とつながりとともに課題解決することができるようになります。
 ○子ども一人一人にしっかりと目を向け、自分らしく安心して過ごせる環境をつくります。
 ・3年間を通して、児童支援専任を中心とするチームによる指導の充実を図り、一人一人と共にあり、その子らしさを大切に育む指導に取り組めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①全学年で教科担任制を引き続き行い、各教科の特質に応じて、育成を目指す資質・能力を育むための授業づくりをする。②算数の授業において、3年生でT.Tを、4・5年生でコース別学習を行い、児童の実態に応じた授業の展開を工夫する。③ICTの効果的な活用に加え、YPアセスメントの結果も生かすことで、授業で自分の考えを表現できる児童の姿を目指す。
担当	研究部

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
 国語科の学力は、市の平均に近いといえる。技能的には能力があるのに、意識が低いため、自分の考えを言葉で表現することに消極的な面があると思われる。
 算数科では、基礎・基本、活用能力は概ね身につけている。学年が上がるにつれて、図形領域の学力が低くなっている傾向はあるものの、ほかの領域は市の平均的な学力である。また、学年が上がるにつれて、学習への意識が低くなる傾向があり、算数に対するの苦手意識をもっている児童が多くなることがうかがえる。
 (2)これまでの学校の取り組み状況
 算数科では、コース別や少人数学習を取り入れていることが、学力に関して一定の成果に表れていると言える。また、教科担任制を行うことで、各教科の特質に応じた授業の工夫を行い、指導の充実を図っている。



今年度の目標

児童自らが課題を設定するなど見通しをもって課題解決に向かうことで自分の考えをもち、それを進んで表現できるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

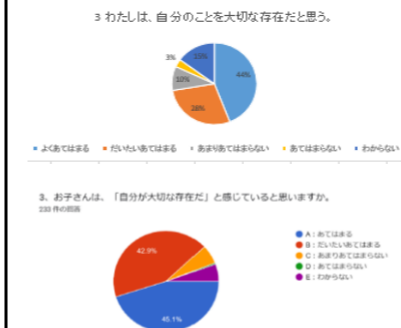
上半期
 ○YPアセスメントを年間で2回行う。
 ○教科担任制や算数科のコース別学習(4・5年生)を行い、児童の実態に基づいた指導の充実を図る。
 【1年生】図工、音楽の教科担任制を実施する。
 【2年生】図工、体育、音楽の教科担任制を実施する。
 【3年生】理科、図工の教科担任制を実施する。
 【4年生】図工、体育、理科の教科担任制を実施する。算数では、コース別学習を行う。
 【5年生】体育、社会科、家庭科、書写の教科担任制を実施する。算数では、コース別学習を行う。
 【6年生】外国語、書写、図工、理科の教科担任制を実施する。
 【個別支援級】児童一人ひとりの教育的ニーズに応じて、育成を目指す資質・能力を明確にし、目標・学習内容を設定し、指導・支援していくようにする。
 下半期
 ○重点研究授業の取り組みとして、国語科を中心として、児童自らが課題を設定するなどして自分の考えをもち、それを進んで表現できるようにする。
 ・児童が自己調整しながら学習を進めることができるようにすることで、「できる」「やりたい」と思えるような授業を目指す。
 ・児童一人ひとりの特性や学習到達度に応じて、適切な手立てを考える。
 ・児童一人ひとりの興味や関心に応じた学習活動や課題に取り組む機会を設ける。
 ・自分の考えをしっかりともてるようにし、「友達に発表したい」と思えるようにする。さらに多様な他者と意見を交流することで、異なる考え方が組み合わせられるようにし、よりよい学びにつなげていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①フレンドチーム活動をはじめとする異学年との学習、地域の方との学習など他者と「つながる」教育をさらに推進し、自己有用感を育む。②Y-Pアセスメントを年2回実施し、他者によりよく関わるができるようにし、子どもたちのクラスの居心地をよくすることができるようにする。③道徳の授業の充実を図り、子ども同士がどう考えたのかを伝え合うことで、人により、さまざまな感じ方・考え方ができることを知り、自分とは違う考えも大切にしようとする心情を育む。
担当	総務部

豊かな心に関わる本校の状況

どの子どもも落ち着いて生活することができている。朝食はしっかり食べ、学習の持ち物がそろえられるなど、基本的な生活習慣は身につけている児童が多い。しかし、人と違う発言や行動をとることを避けるなど、自由に伸び伸びと自己表現することができない児童も多い。そのため、まずは自己理解を深め、自分のよさに気づき、その後他者との違いを認め、互いのよさを認め合えるような活動の工夫が必要である。また、学級では、真面目に物事に取り組む児童でも自己評価が低いなど、自分に自信がもてず、自尊心が低い子ども一定数いる。そのため、豊かな人間関係の中で、達成感を得られるような活動の工夫が必要である。自尊心やコミュニケーション能力、自己表現力を高め、互いの違いを様々な場面で認め合う場が必要である。



今年度の目標

異年齢集団、フレンドチーム活動を充実させることで、自己有用感を育むことができるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

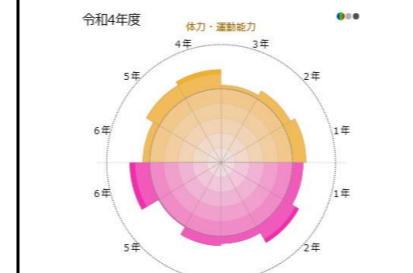
上半期
 ①子どもの実態をもとに適した教材を活用し、全学級の道徳授業の充実を図る。
 ②道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める指導を行う。
 ③校内での異学年交流、幼稚園保育園、地域の方との交流など「つながる学習」を意図的に取り入れることで「ありがとう」と言える、言われる経験を積む。
 ④フレンドチームでの遠足、集会などの活動を豊かにし、異学年との交流を豊かにする。各学年に役割をもたせることで、個々の活躍の場を増やしていく。
 ⑤定期的にY-Pアセスメント・横浜プログラムを実施し、安心して過ごせる学級風土の中で、他者を思いやる気持ちを育てながら自尊心を養う。それらの結果から、子どもたちの心の動きの変化を知り、日々の学習活動に生かす。
 ⑥「居心地のよい学校づくり」のためにできることを、リーダーシップ委員を中心に話し合い、全校や学級でできる具体的な取り組みを考え、子どもたちが主体となって実践していけるようにする。
 下半期
 ①友達の考えを受け止め、自分の考えと比べながら考えを深めることのできる授業展開にすることで多面的・多角的な見方へと広げる指導をし、道徳的価値の理解を基に、互いのよさを知り、認め合うことができるようにする。
 ②今の自分を振り返り、伝え合うことで自己の考えを広げたり深めたり、互いのよさを認め合ったりできる授業作りを行うことで、道徳的な実践への意欲と態度を養うことができるようにする。
 ③他教科との関連を図るなどして、問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を主体的に追求し、多様な考え方や感じ方を基に学べるようにする。
 ④フレンドチームでの異学年集団での取り組みを充実させ、「ありがとう」と言える、言われる経験を積むことで、自尊心、自己肯定感を育む。
 ⑤「居心地のよい学校づくり」のためにできることを、リーダーシップ委員を中心に話し合い、全校や学級でできる具体的な取り組みを考え、子どもたちが主体となって実践していけるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①家庭科の学習がない低・中学年においても、栄養士が教科等の時間に発達段階に応じた食育教育を行い、内容を家庭に発信する。②養護教諭や学校医による保健指導を引き続き行い、病気になるための正しい知識や、自分の心や体について知る機会を設ける。③年間に数回のラジオ体操週間等の機会を設けて、集会の時間等に取り組む。
担当	指導部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
 ・朝食の摂取率は各学年で高い水準を維持できている。睡眠時間については学年が上がることに不規則になりがちである。
 ・全国平均や横浜市平均に比べて1日に運動やスポーツに取り組む平均時間が長い。また、運動する機会や時間が長い児童ほど、体力テストの結果もよい。
 ・約3年間、コロナ禍の影響で児童の運動時間も減っていたが、運動の機会が徐々に増えてきている。また、体育の授業においても運動量を確保できるようにしてきた。休み時間の体育館の開放を行うなど、より多くの児童が運動に親しめる機会を設けるようにしている。



(2)これ
 ・ラジオ体操週間
 一週間毎日、朝の時間にラジオ体操に取り組む時間を設定し、持続可能な運動に取り組む機会を設ける。

今年度の目標

<自分づくりに関する力>体力向上に向けての取組や、保健・食育の取組を継続して日常につなげる。一人一人が自分の体に興味・関心をもち、心と体の健康を意識を高める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○養護教諭による保健の指導(朝食:熱中症予防)
 ○学校保健委員会では、アンケート結果から児童の健康面での課題を学級保健目標にして、定期的に振り返りを行う。
 ○学年に応じて栄養士による食育の授業を行う。その際に、他教科や総合的な学習の時間との連携を図る。
 ○体力テスト、運動会の準備運動、集会活動等でラジオ体操を行い、持続可能な運動に取り組む機会を設ける。
 ○水泳学習(高学年は、着衣泳も含む)を通して、安全確保につながる運動の仕方を学び、自分の命を守る意識を高める機会にする。
 ○体育科、保健体育科では、低中高の6年間+中学3年間の計9年間の系統性を大切にしたカリキュラムをもとに、児童のスキルや学びが定着、向上するように指導の一貫性を図る。
 下半期
 ○養護教諭による保健の指導(朝食:感染症予防)
 ○学校医の話を聞く機会を設ける。
 ○給食週間を通して、栄養価的な内容や食育の視点で給食のメニューに目を向け、「自分の体にとってどんな良いことがあるのか」を考える機会を設ける。